

# 令和3年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立南紀支援学校

学校長名：石本 辰夫

めざす学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども一人一人のニーズや課題に応じた教育を進める学校</li> <li>子どもが安心安全に生活できる学習環境の整備を進める学校</li> <li>地域における特別支援教育の専門性を生かしたセンター的機能を担う学校</li> <li>健やかに生き、豊かに学び、仲間とともに社会で生きる子どもの育成</li> </ul>
-------------------	---

中期的な 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>肢体不自由教育における専門性のさらなる向上</li> <li>上富田町の地域資源を把握し、教育実践に活用</li> <li>統合校での充実した特別支援教育の展開</li> </ul>
------------	--

達成度	A	十分に達成した。 (80%以上)
	B	概ね達成した。 (60%以上)
	C	あまり十分でない。 (40%以上)
	D	不十分である。 (40%未満)

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 新学習指導要領に基づいた子ども一人一人の実態に応じた授業実践及び授業改善
	2 はまゆう支援学校との統合に向けて、統合校における学校運営を整え、新校舎の建設において児童生徒が安心安全に活動できる教育環境の整備
	3 学校周辺の地域資源を活用した教育実践
	4 肢体不自由の専門性を引き継ぐ人材育成

学校評価の結果と改善 方策の公表 の方法	学校評価の結果を踏まえ、学部、分掌、運営委員会等で改善策について検討し、職員会議で結果と改善策を含め、職員全体で共通理解を図る。また、保護者には育宝会役員会及び総会を通じて、結果と改善策を報告する。併せて学校運営協議会においても結果と改善策を報告し、意見を頂くとともに今後の本校教育への協力を依頼する。また、ホームページでも公表する。
----------------------------	---

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。  
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価					年度評価 (3月18日現在)		
重点目標					年度評価 (3月18日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	新学習指導要領の主旨をを理解し、統合校に向けて年間指導計画の書式を変更し、教科の視点を持った年間指導計画の作成に取り組んでいる。この取り組みを授業づくりに反映させ、児童生徒一人一人につけたい力を明確にし、教科の視点を持った授業づくりを行うことが課題である。	児童生徒のつけたい力を意識し、教科の視点で年間指導計画作成及び授業づくりができていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間指導計画作成のための研修を行う。</li> <li>合わせた指導において教科の視点で年間指導計画を作成する。</li> <li>授業づくりの中でつけたい力を明確にし、授業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新様式での年間指導計画を2教科作成することができたか。</li> <li>つけたい力を授業者が意識することができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新様式で年間指導計画を2教科作成することができた。合わせた指導形態による年間指導計画の3観点による目標設定は、障害の重い子どもにとって目標を立てる難しさがあった。つけたい力を意識することができたが、肢体不自由の障害の重い子どもにとって運動面や手指の操作性に関する指導が多くなっている。</li> </ul>	B	障害の重い子どもにとっての教科の目標設定の参考となる「障害の重い子どもの目標設定ガイド」を研修し、活用することで障害の重い子どもにとっても教科で捉えた目標設定ができるようになる。自立活動の指導について理解を深めるとともに、肢体不自由の子どもに医療モデルだけでなく、社会モデルを意識した支援が必要である。
2	令和5年度の統合に向け、教育課程・行事等の具体的な取り組みについて統合時をイメージし、検討することが課題である。また、両校のPTA活動をどのような形で統合していくのか検討を始める事が課題である。	統合校の教育課程(案)ができていく。  PTAの役員が統合を意識し、統合後の活動を検討していくことができていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>両校の主事、管理職、分掌部長で素案を作成し、両校で検討する。</li> <li>PTA役員の保護者の子育ての困りや楽しさについて情報を共有する。</li> <li>障害種の違いがあっても同じ学校の保護者としてPTA活動を進める意識を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までの両校の教育課程にこだわらず、統合校の教育課程(案)を作成することができたか。</li> <li>お互いの学校の子どものことを考えたPTA活動を考えることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症により、両校の話し合いの時間をとることに難しさがあった。そのため、教育課程(案)の作成には至っていない。PTA活動のすりあわせや、知肢併置校のPTA会長と意見交換することを通し、障害種別にこだわらない、一緒にできる活動を考えることに気づきがあった。</li> </ul>	B	教育課程の研修を通して、統合校の教育課程を考える気づきを促す。また、PTA活動も規約を統合し、障害種別に関係なく一緒に活動できる取り組みを模索することが課題である。そのためには、知肢併置校の取り組みの情報を収集し、PTA活動に取り入れる等の工夫をすることが必要である。
3	本校では、居住地校交流や学校間交流、共同学習等を行っている。さらに同年代の生徒とリモートを活用し、共同学習を行い始めた。また、新型コロナウイルス感染症対策をしつつ、地域の公民館や地域資源を調査し、授業の中で活用し繋がっていくことが課題である。	地域の施設を利用した活動を行う。  地域の人を招き、地域の活動を校内の授業に取り入れる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学部公民館を利用し、地域の場に児童生徒と学校外へ出る。</li> <li>学校内や公民館等の場所へ絵本の読み聞かせをする人、テレワークの事業者等を招いて、授業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館等を年間3回以上活用できたか。</li> <li>公民館の人とふれあうことができたか。</li> <li>地域の資源を活用した授業ができたか。</li> <li>地域の人とふれあうことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館の場所を活用し、読み聞かせ等の人を呼び、活動することができた。また、公民館についての調べ学習を行う生徒も公民館についてまとめ発表することができた。新型コロナウイルス感染症直接ふれあうことができないときもあったが、リモートにより繋がることはできた。</li> </ul>	A	公民館の活動にとどまらず、地域の資源を把握し、活用していくことで児童生徒と地域の人との関わりを拡げることが必要である。そのために地域の資源を再度調べ、取り組みにつなげる必要がある。
	専門性を持っている職員の退職、児童生徒数の減少に伴い、肢体不自由教育の専門性を継承し、専門性を引き継ぐことが課題である。	初任者を含め職員の肢体不自由教育の専門性を研修し、	<ul style="list-style-type: none"> <li>初任研を含めた研修ができる環境を整備する。</li> <li>職員の経験年数に合わせた研修を実施できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間の研修計画を立て取り組む事ができたか。</li> <li>研修内容をコーディネートし、職員の経験に合わせた研修ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修計画を立て進めることができたが、研修の回数としては少なかったと感じている。対象となる研修のみになってしまった。</li> </ul>	B	全職員が主体的に研修することが課題である。そのために研修の回数確保、研修の内容と講師(統合校の職員)の検討を行い、職員が研修の講師をすること、その研修を若手が聞く等工夫が必要である。

学校関係者評価	
4年12月7日 実施	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
先生方は、子どもたちのために教育・健康・安全に工夫され取り組まれている姿を拝見し、頭の下がる思いです。新校舎になるのが楽しみです。	
研修を積み重ね取り組んでいることがよくわかった。今後も継続して進めて欲しい。	
新型コロナウイルス感染症が早く落ち着くことで地域の人との関わりが持てる活動ができると思います。早く新型コロナウイルス感染症が治まること願っています。	